

I 人口・世帯数の概要

1 概要

平成28年10月1日現在の住民基本台帳に基づく浜松市の総人口は808,249人で、前年に比べ816人(0.10%)減少している。世帯数は330,765世帯で、3,298世帯(1.01%)増加している。

性別で見ると、男性が402,184人(構成比49.8%)で、前年に比べ125人(0.03%)減少している。女性は406,065人(同50.2%)で、前年に比べ691人(0.17%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.0で、平成27年の98.9と比べ0.1ポイント増加している。

1世帯当たりの平均人員は2.44人で、前年に比べ0.03人減少している。

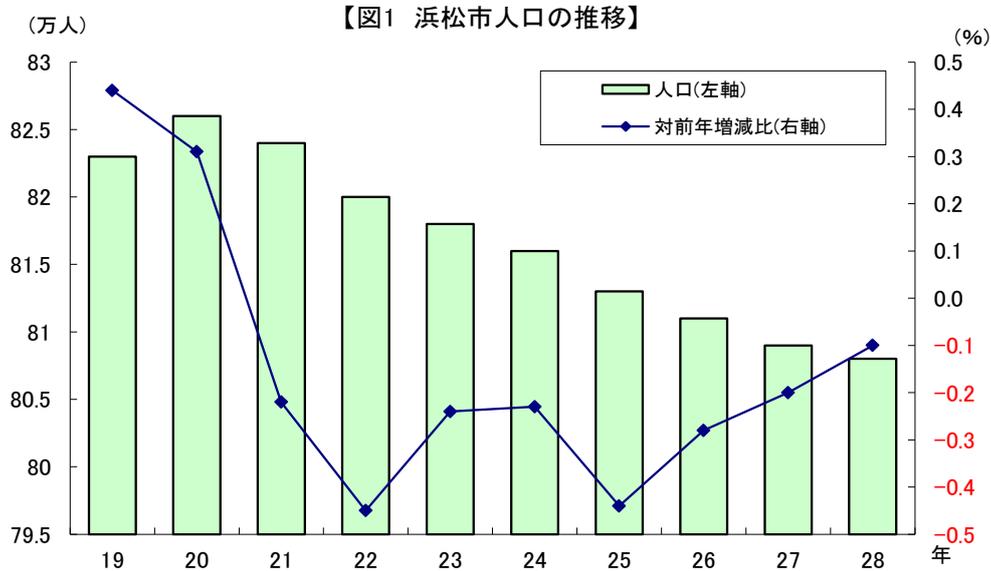


表1 浜松市人口・世帯数の推移

年	総		人			口		日 本	
	総 数	前年比%	男	女	世帯数	総 数	前年比%		
平成 19年	823,272	0.44	410,378	412,894	316,716	790,292	0.28		
20	825,810	0.31	411,822	413,988	316,716	792,191	0.24		
21	824,023	△ 0.22	410,644	413,379	318,158	793,505	0.17		
22	820,317	△ 0.45	408,612	411,705	317,669	792,788	△ 0.09		
23	818,375	△ 0.24	407,360	411,015	318,213	792,691	△ 0.01		
24	816,490	△ 0.23	406,168	410,322	320,171	792,334	△ 0.05		
25	812,888	△ 0.44	404,343	408,545	321,882	791,400	△ 0.12		
26	810,642	△ 0.28	403,298	407,344	324,478	789,670	△ 0.22		
27	809,065	△ 0.19	402,309	406,756	327,467	788,190	△ 0.19		
28	808,249	△ 0.10	402,184	406,065	330,765	786,831	△ 0.17		

注)平成23年以前は、日本人住民は住民登録数、外国人住民は外国人登録数を集計。

表2 浜松市人口・世帯数等

	平成 27 年 10 月 1 日						前年	
	総数	男	女	性比	世帯数	1世帯あたり平均人員	総数	前年比%
総人口	809,065	402,309	406,756	98.9	327,467	2.47	808,249	△ 0.10
日本人住民	788,190	392,182	396,008	99.0	318,343	2.48	786,831	△ 0.17
外国人住民	20,875	10,127	10,748	94.2	9,124	2.29	21,418	2.60

2 日本人住民数と外国人住民数

平成28年10月1日現在の日本人住民数は786,831人で、前年に比べ1,359人(0.17%)減少している。世帯数は321,240世帯で、2,897世帯(0.91%)増加している。

性別で見ると、男性が391,796人(構成比49.79%)で、前年に比べ386人(0.10%)減少している。女性は395,035人(同50.21%)で、前年に比べ973人(0.25%)減少している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は99.2で、平成27年の99.0と比べ0.2増加している。

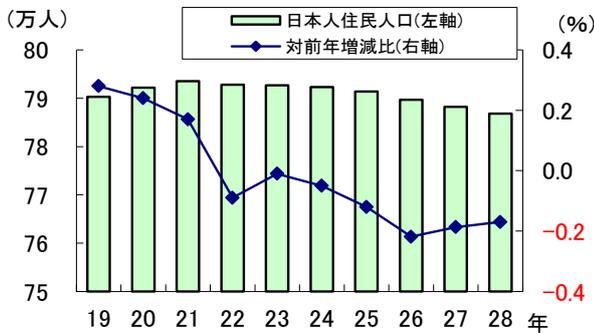
1世帯当たりの平均人員は2.45人で、前年に比べ0.03人減少している。

平成28年10月1日現在の外国人住民数は21,418人で、前年に比べ543人(2.60%)増加している。世帯数も9,525世帯で、前年に比べ401世帯(4.40%)増加している。

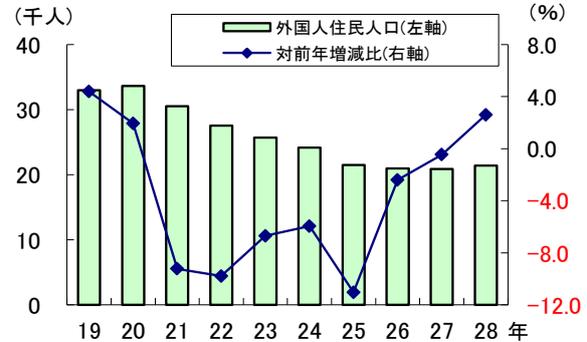
性別で見ると、男性が10,388人(構成比48.50%)で、前年に比べ261人(2.58%)増加、女性は11,030人(同51.50%)で、前年に比べ282人(2.62%)増加している。性比(女性を100とした場合の男性の割合)は94.2で、平成27年の94.2と比べ変動はない。

1世帯当たりの平均人員は2.25人で、前年と比べ0.04人減少している。

【図2 浜松市人口の推移(日本人住民)】



【図3 浜松市人口の推移(外国人住民)】



人 住 民			外 国 人		人 住 民		
男	女	世帯数	総数	前年比%	男	女	世帯数
393,023	397,269	293,790	32,980	4.38	17,355	15,625	19,360
394,277	397,914	297,481	33,619	1.94	17,545	16,074	19,235
394,974	398,531	300,543	30,518	△ 9.22	15,670	14,848	17,615
394,755	398,033	302,750	27,529	△ 9.79	13,857	13,672	14,919
394,635	398,056	305,874	25,684	△ 6.70	12,725	12,959	12,339
394,282	398,052	309,078	24,156	△ 5.95	11,886	12,270	11,093
393,864	397,536	312,365	21,488	△ 11.04	10,479	11,009	9,517
393,052	396,618	315,192	20,972	△ 2.40	10,246	10,726	9,286
392,182	396,008	318,343	20,875	△ 0.46	10,127	10,748	9,124
391,796	395,035	321,240	21,418	2.60	10,388	11,030	9,525

平 成 28 年 10 月 1 日									
男	前年比%	女	前年比%	性比	世帯数	前年比%	1世帯あたり 平均人員	面積km ²	人口密度
402,184	△ 0.03	406,065	△ 0.17	99.0	330,765	1.01	2.44	1,558.06	519
391,796	△ 0.10	395,035	△ 0.25	99.2	321,240	0.91	2.45	-	-
10,388	2.58	11,030	2.62	94.2	9,525	4.40	2.25	-	-

3 行政区別人口

行政区別に人口・世帯数をみると、人口・世帯数ともに最も多いのは中区で、239,553人(構成比29.6%)、109,032世帯(同33.0%)である。また、人口・世帯数ともに最も少ないのは天竜区で、30,457(同3.8%)、12,692世帯(同3.8%)である。

人口密度も同様に、最も高いのは中区の5,403人/km²、最も低いのは天竜区の32人/km²である。

性比(女性を100とした場合の男性の割合)は、南区が101.1で最も高く、続く東区も100.5で、男性の割合が高い。性比が最も低いのは、天竜区の93.7である。

【図4 行政区別人口・世帯数(構成比)】

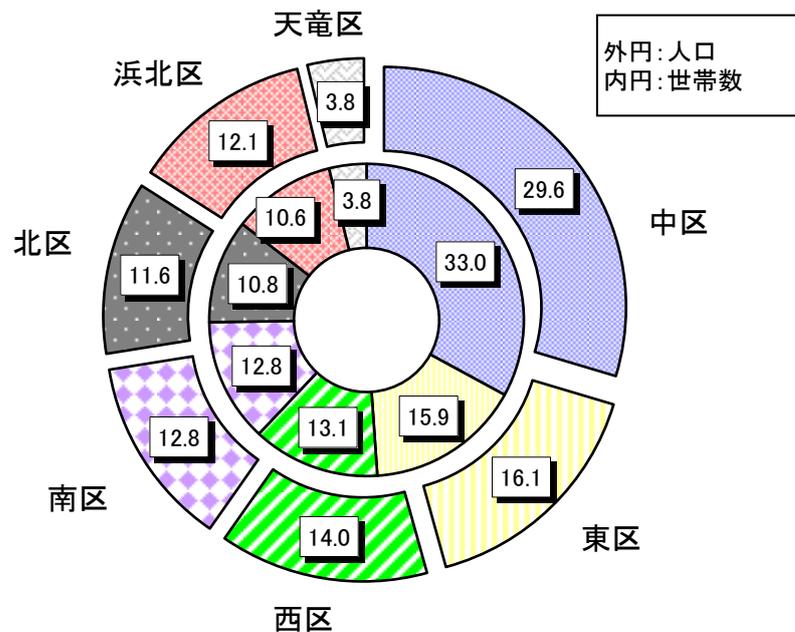


表3 区別の人口・世帯数等

区	平成27年10月1日		平成28年10月1日										
	総数	世帯数	総数	前年比%	男	女	性比	世帯数	前年比%	1世帯あたり平均人員	人口構成比	面積km ²	人口密度
中区	239,862	108,131	239,553	△ 0.13	118,880	120,673	98.5	109,032	0.83	2.20	29.6	44.34	5,403
東区	129,855	52,209	130,047	0.15	65,188	64,859	100.5	52,734	1.01	2.47	16.1	46.29	2,809
西区	113,165	42,869	112,773	△ 0.35	56,098	56,675	99.0	43,300	1.01	2.60	14.0	114.71	983
南区	103,409	41,764	103,242	△ 0.16	51,912	51,330	101.1	42,274	1.22	2.44	12.8	46.84	2,204
北区	94,329	35,225	94,073	△ 0.27	46,491	47,582	97.7	35,563	0.96	2.65	11.6	295.54	318
浜北区	97,212	34,501	98,104	0.92	48,882	49,222	99.3	35,170	1.94	2.79	12.1	66.50	1,475
天竜区	31,233	12,768	30,457	△ 2.48	14,733	15,724	93.7	12,692	△ 0.60	2.40	3.8	943.84	32

4 年齢別人口

年齢別に人口をみると、老年人口(65歳以上)は211,928人(構成比26.2%)で前年に比べ4,463人増加し、年少人口(15歳未満)は109,504人(同13.6%)で896人減少し、生産年齢人口(15歳～64歳)は486,817人(同60.2%)で4,383人減少している。

行政区別に構成比をみると、年少人口が最も高いのは浜北区(15.6%)で、最も低いのは天竜区(7.7%)である。生産年齢人口が最も高いのは中区(62.1%)で、最も低いのは天竜区(50.1%)である。老年人口が最も高いのは天竜区(42.2%)で、最も低いのは東区(24.6%)である。

表4 年齢3区分別人口

	平成27年	平成28年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口 (15歳未満)	110,400	109,504	30,623	18,832	16,196	13,685	12,534	15,279	2,355
構成比(%)	13.6	13.6	12.8	14.5	14.4	13.3	13.3	15.6	7.7
生産年齢人口 (15歳～64歳)	491,200	486,817	148,671	79,290	67,175	62,720	55,452	58,253	15,256
構成比(%)	60.7	60.2	62.6	61.0	59.6	60.8	59.0	59.4	50.1
老年人口 (65歳以上)	207,465	211,928	60,259	31,925	29,402	26,837	26,087	24,572	12,846
構成比(%)	25.6	26.2	25.2	24.6	26.1	26.0	27.7	25.1	42.2

年齢構成指数をみると、年少人口指数は22.5(前年22.5)で変動なし。老年人口指数は43.5(同42.2)、従属人口指数は66.0(同64.7)、老年化指数は193.5(同187.9)で、前年に比べ上昇している。老年化指数の上昇が著しく、高齢化が進んでいることが分かる。

行政区別にみると、老年人口指数・従属人口指数において天竜区が突出して高く、生産年齢人口が少ないことを示している。老年化指数は全ての区で150を超えており、老年人口が年少人口を上回っていることが分かる。

【人口の年齢構成の特徴を表す指数】

- 年少人口指数(生産年齢人口に占める年少人口の割合)

$$\frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$
- 老年人口指数(生産年齢人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$
- 従属人口指数(生産年齢人口に占める年少人口と老年人口の和)

$$\frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$
- 老年化指数(年少人口に占める老年人口の割合)

$$\frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

【図5 年齢3区分別人口(構成比)】

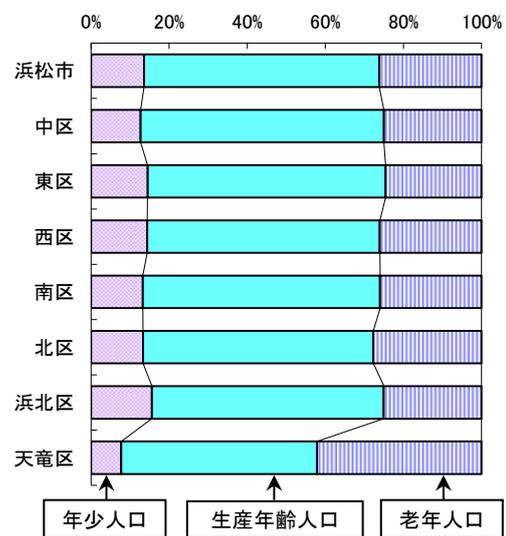


表5 年齢構成指数

	平成27年	平成28年							
	浜松市	浜松市	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
年少人口指数	22.5	22.5	20.6	23.8	24.1	21.8	22.6	26.2	15.4
老年人口指数	42.2	43.5	40.5	40.3	43.8	42.8	47.0	42.2	84.2
従属人口指数	64.7	66.0	61.1	64.0	67.9	64.6	69.6	68.4	99.6
老年化指数	187.9	193.5	196.8	169.5	181.5	196.1	208.1	160.8	545.5

日本人住民の平均年齢は45.76歳で、前年の45.38歳より0.38歳上昇している。男女別にみると、男性は44.27歳(前年43.91歳)、女性は47.24歳(同46.85歳)で、ともに前年に比べ上昇している。外国人住民の平均年齢は33.80歳で、前年の33.59歳より0.21歳上昇している。男女別にみると、男性は32.81歳(前年32.69歳)、女性は34.73歳(同34.44歳)で、ともに上昇している。

行政区別にみると、日本人住民の平均年齢は、前年と同様すべての区において上昇しており、最も上昇幅が大きかったのは天竜区の0.55歳で、最も上昇幅が小さかったのは浜北区の0.15歳であった。外国人住民の平均年齢は、前年に比べ、中区、東区、南区、北区及び浜北区において上昇している。

表6 平均年齢

【日本人住民】

	平成27年			平成28年		
	男	女	合計	男	女	合計
浜松市	43.91	46.85	45.38	44.27	47.24	45.76
中区	43.85	46.88	45.38	44.14	47.20	45.68
東区	42.83	45.53	44.18	43.09	45.85	44.47
西区	43.56	46.41	44.99	43.89	46.77	45.33
南区	43.94	46.75	45.33	44.24	47.10	45.66
北区	44.65	47.76	46.22	45.00	48.10	46.57
浜北区	43.07	45.52	44.30	43.23	45.67	44.45
天竜区	52.78	56.93	54.93	53.27	57.55	55.48

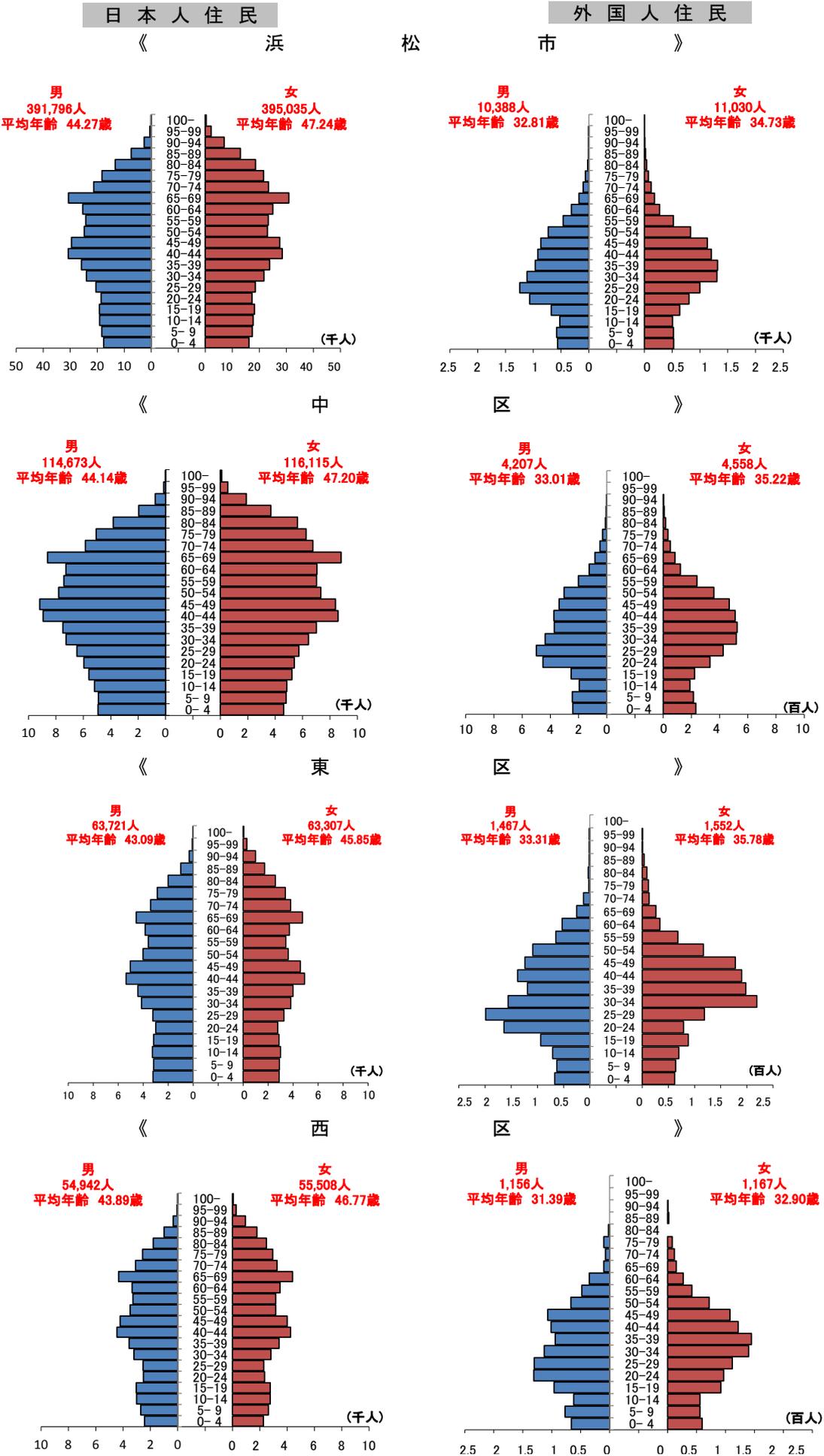
【外国人住民】

	平成27年			平成28年		
	男	女	合計	男	女	合計
浜松市	32.69	34.44	33.59	32.81	34.73	33.80
中区	33.11	35.01	34.10	33.01	35.22	34.16
東区	42.83	35.16	34.00	33.31	35.78	34.58
西区	43.56	32.81	32.15	31.39	32.90	32.15
南区	43.94	33.62	32.95	32.52	34.19	33.36
北区	44.65	33.95	33.21	32.84	34.53	33.74
浜北区	43.07	33.24	32.64	32.22	33.26	32.74
天竜区	52.78	41.12	41.58	41.65	39.71	40.52

人口ピラミッド(5歳階級)は、日本人住民において、65～69歳(昭和23～27年生)と、40～44歳(昭和48～52年生)の人口が多いことを表している。外国人住民は、30歳代前半の人口が最も多い。

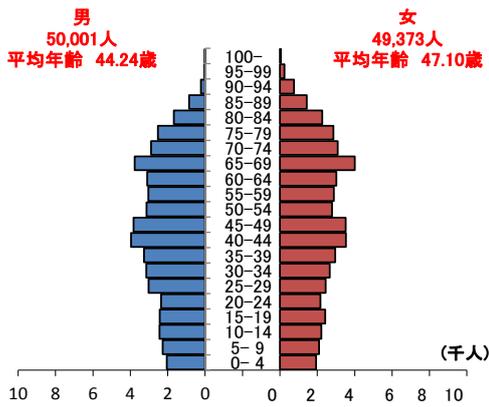
行政区別にみても概ねその傾向があるが、特徴的な区もある。北区の日本人住民人口は、他区に比べ年齢階級による凹凸が少ない。天竜区の日本人住民においては、第二次ベビーブーム世代の凸が見られない。

【図6 人口ピラミッド(5歳階級)】

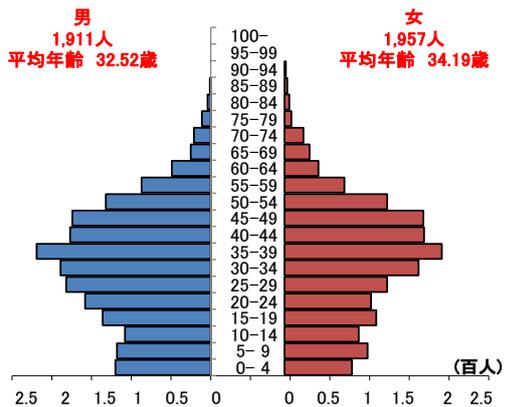


日本人住民

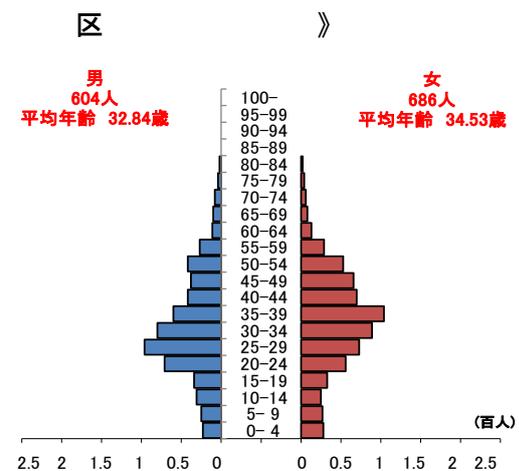
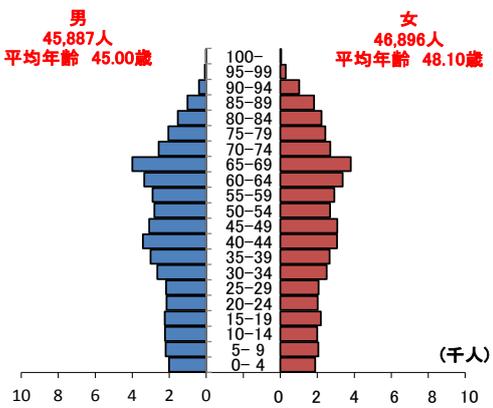
《 南区 》



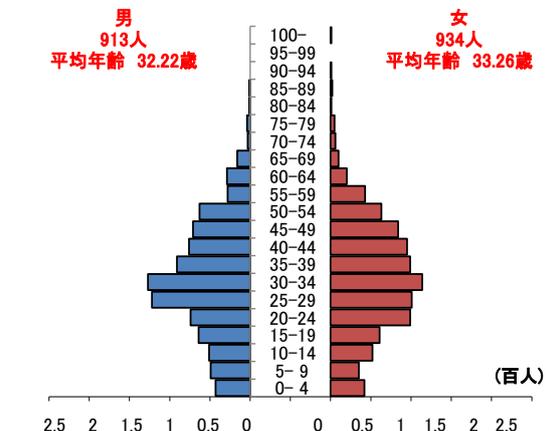
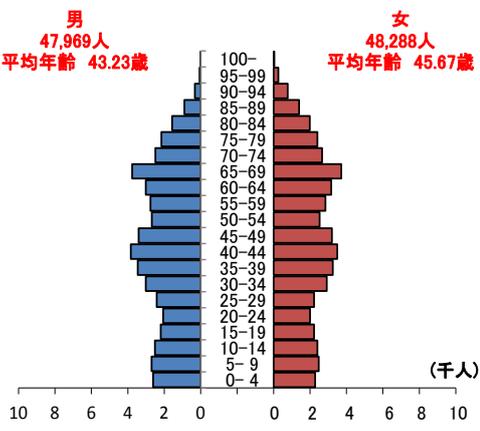
外国人住民



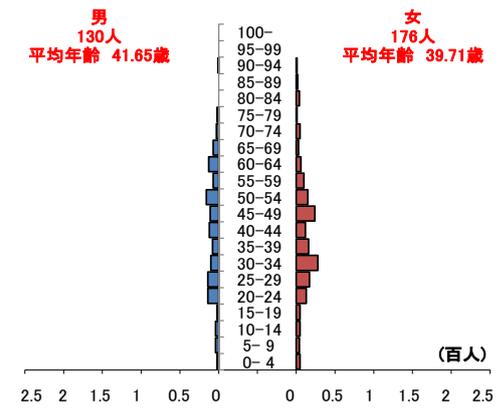
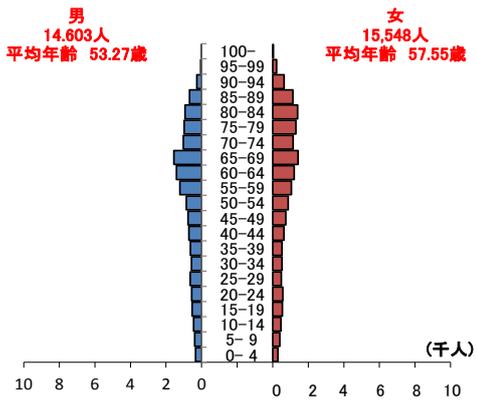
《 北区 》



《 浜北区 》



《 竜天区 》



5 人口動態(平成28年1月～12月)

(1) 自然動態

平成28年1月から12月までの自然動態をみると、出生数は6,783人、出生率(人口1,000人当たりの出生数)は8.39‰(パーミル)である。これに対し、死亡数は7,914人、死亡率(人口1,000人当の死亡数)は9.79‰で、両者の差である自然増減数は1,131人減、自然増減率(人口1,000人当たりの自然増減数)は1.40‰減である。

前年と比較すると、出生数は187人、死亡数は98人減少している。自然増減数は92人減で8年連続の減少である。

行政区別にみると、出生数は中区、東区、浜北区の順に多く、死亡数は中区、西区、東区の順に多い。自然増減数は東区、浜北区の順に多く、北区と天竜区では大きく減少している。

率をみると、出生率が最も高いのは東区、最も低いのは天竜区である。死亡率が最も高いのは天竜区、最も低いのは浜北区であり、自然増減率が最も高いのが東区、最も低いのが天竜区である。

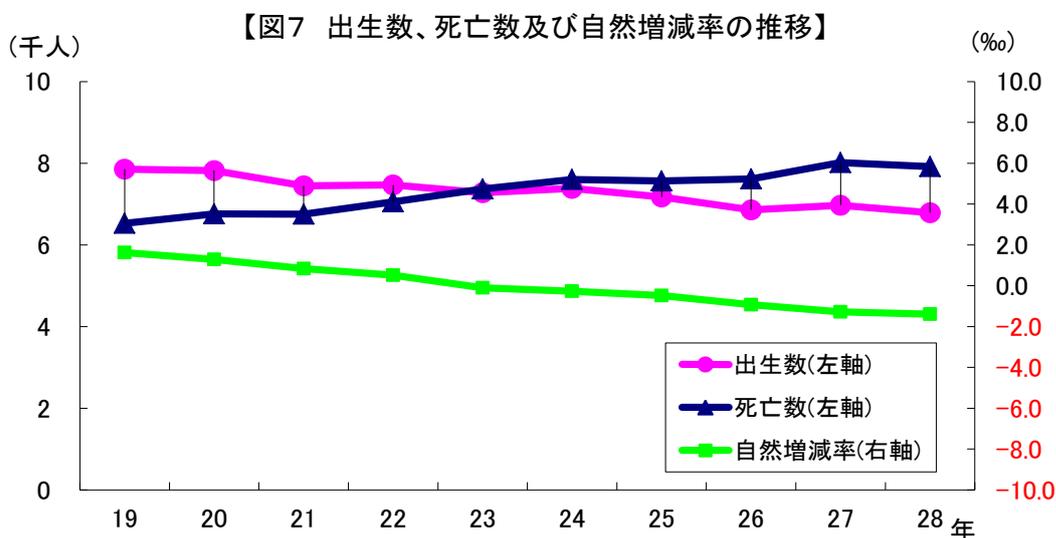


表7 自然動態

区 別	出 生			死 亡			自 然 増 減		
	総 数	出生率(‰)	前年比(%)	総 数	死亡率(‰)	前年比(%)	総 数	自然増減率(‰)	前年比(%)
浜松市	6,783	8.39	△ 2.68	7,914	9.79	△ 1.22	△ 1,131	△ 1.40	8.54
中 区	2,019	8.43	△ 1.66	2,205	9.20	△ 4.96	△ 186	△ 0.78	△ 30.34
東 区	1,270	9.77	△ 4.08	1,121	8.62	1.82	149	1.15	△ 33.18
西 区	912	8.09	0.88	1,174	10.41	6.15	△ 262	△ 2.32	29.70
南 区	854	8.27	△ 3.61	986	9.55	0.31	△ 132	△ 1.28	36.08
北 区	704	7.48	△ 7.25	1,063	11.30	△ 0.28	△ 359	△ 3.82	16.94
浜北区	918	9.36	2.00	831	8.47	△ 7.87	87	0.89	△ 4,450.00
天竜区	106	3.48	△ 26.39	534	17.53	0.00	△ 428	△ 14.05	9.74
平成27年	6,970	8.61	1.62	8,012	9.90	5.21	△ 1,042	△ 1.29	37.83

(2) 社会動態

平成28年1月から12月までの社会動態をみると、転入者数は21,213人、転入率(人口1,000人当たりの転入者数)は26.25‰(パーミル)である。これに対し、転出者数は21,215人、転出率(人口1,000人当たりの転出者数)は26.25‰で、両者の差である社会増減数は2人減少となり、社会増減率(人口1,000人当たりの社会増減数)は0.00‰減である。

前年と比較すると、転入者数は608人増加、転出者数は854人減少となった。社会増減数は246人増加で、99.19%増加となっている。

行政区別にみると、転入者数・転出者数ともに中区、東区の順に多い。社会増減数は北区、天竜区、東区の順に減少している。率をみると、転入率・転出率ともに最も高いのは中区であるが、社会増減率は天竜区、北区、東区の順に減少している。

自然動態と社会動態を比較すると、本年は自然増減数1,131人減少しているのに対し、社会増減数は2人減少となり、前年の減少に比べ、その幅は小さくなっている。

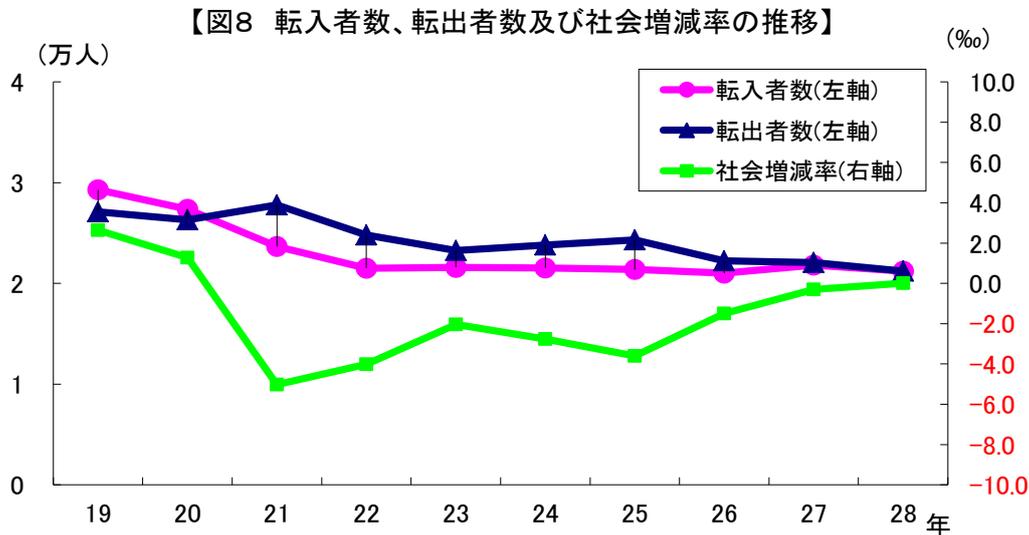


表8 社会動態(市外移動)

区 別	転 入			転 出			社 会 増 減		
	総 数	転入率(‰)	前年比(%)	総 数	転出率(‰)	前年比(%)	総 数	社会増減率(‰)	△は減少率 前年比(%)
浜松市	21,213	26.25	△ 2.79	21,215	26.25	△ 3.87	△ 2	△ 0.00	99.19
中 区	8,653	36.12	△ 2.62	8,449	35.27	△ 5.62	204	0.85	409.09
東 区	3,372	25.93	△ 0.59	3,438	26.44	0.26	△ 66	△ 0.51	△ 78.38
西 区	2,593	22.99	△ 3.61	2,629	23.31	△ 5.57	△ 36	△ 0.32	61.70
南 区	2,729	26.43	△ 2.43	2,681	25.97	△ 2.01	48	0.46	21.31
北 区	1,670	17.75	△ 3.52	1,839	19.55	△ 0.43	△ 169	△ 1.80	△ 45.69
浜北区	1,797	18.32	△ 7.80	1,666	16.98	△ 4.14	131	1.34	37.91
天竜区	399	13.10	6.12	513	16.84	△ 12.01	△ 114	△ 3.74	44.93
平成27年	21,821	26.97	3.85	22,069	27.28	△ 0.71	△ 248	△ 0.31	79.55

6 人口移動状況(住民基本台帳・平成28年1月～12月)

平成28年1月から12月までの人口移動状況をみると、東海地方での出入りが最も多く、転入者は9,632人(構成比54.5%)、転出者は9,364人(同50.6%)である。以下、関東地方、近畿地方と続いている。

東海地方を県別にみると、転入者・転出者ともに最も多いのは静岡県で、東海地方における移動者の約6割を占めている。関東地方においては、転入者・転出者ともに東京都、神奈川県に多い。

大都市(東京都特別区部及び政令指定都市)別にみると、転入者は東京都特別区部、静岡市、名古屋市に多く、転出者は東京都特別区、名古屋市、静岡市の順に多い。

全国でみると821人の転出超過であるが、北陸甲信越、東海、中国、四国、九州・沖縄に対しては転入超過である。東海地方においては268人の転入超過であるが、愛知県に対しては411人の転出超過である。

表9 地方別転入・転出者数

地 方	転 入				転 出				転 入 超 過 数 (△は転出超過数)		
	総 数	構成比(%)	男	女	総 数	構成比(%)	男	女	総 数	男	女
総 数	17,671	100.0	10,163	7,508	18,492	100.0	10,484	8,008	△ 821	△ 321	△ 500
北 海 道	231	1.3	131	100	242	1.3	155	87	△ 11	△ 24	13
東 北	348	2.0	205	143	425	2.3	268	157	△ 77	△ 63	△ 14
関 東	3,876	21.9	2,281	1,595	5,157	27.9	2,864	2,293	△ 1,281	△ 583	△ 698
北陸甲信越	742	4.2	409	333	608	3.3	356	252	134	53	81
東 海	9,632	54.5	5,461	4,171	9,364	50.6	5,253	4,111	268	208	60
近 畿	1,284	7.3	747	537	1,430	7.7	797	633	△ 146	△ 50	△ 96
中 国	529	3.0	325	204	329	1.8	206	123	200	119	81
四 国	175	1.0	92	83	111	0.6	65	46	64	27	37
九州・沖縄	854	4.8	512	342	826	4.5	520	306	28	△ 8	36

注1) 住民基本台帳人口移動報告年報(基本集計)(総務省統計局)による。

注2) 東北地方:青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東地方:茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北陸甲信越地方:新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県

近畿地方:滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方:鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方:徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州・沖縄地方:福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

注3) 都道府県別・大都市別の転入・転出者数は、統計表7に掲載。

表10 東海地方県別転入・転出者数

県	転 入				転 出				転 入 超 過 数 (△は転出超過数)		
	総 数	構成比(%)	男	女	総 数	構成比(%)	男	女	総 数	男	女
総 数	9,632	100.0	5,461	4,171	9,364	100.0	5,253	4,111	268	208	60
静 岡 県	5,982	62.1	3,405	2,577	5,369	57.3	3,026	2,343	613	379	234
岐 阜 県	405	4.2	228	177	345	3.7	197	148	60	31	29
愛 知 県	2,936	30.5	1,655	1,281	3,347	35.7	1,843	1,504	△ 411	△ 188	△ 223
三 重 県	309	3.2	173	136	303	3.2	187	116	6	△ 14	20